

平成30年度学校評価報告書

北海道南幌高等学校長

黒田 治

1 本年度の重点目標

- 1 将来の展望に立ち、自ら学ぶ意欲と態度を養い学力の向上を目指す。
- 2 特別活動や生徒会活動及びボランティア活動を充実させ、協調性や社会性を養うとともに他を思いやる心豊かな人間性の育成を目指す。
- 3 保護者や地域との連携を強化し、開かれた教育課程の実践を目指す。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・校内研修会や公開授業週間等をととした授業改善や学習評価の工夫改善により、生徒の学習意欲の向上につながるなど成果があった。 ・全ての教科・科目において標準時数以上の大幅な授業時数の確保ができ、学習時間の増加につながった。	・一人ひとりの学習状況に応じたきめ細かな指導に感謝している。 ・学校内にとどまらず社会の教育力を活用した学習の機会を設けて欲しい。
改善方策	(1) 自ら学ぶ学習意欲の喚起を促す指導及び学び直しなど、生徒一人ひとりに応じた学習指導の取組 (2) 主体的で対話的な深い学びの実戦に向けてALを効果的に活用するなどの積極的な授業改善の取組。	
生徒指導	・新たな生徒会行事の取組や地域と連携したイベントによる異世代交流をととして、礼儀や社会性を学ぶとともに、ふるさとキャリア教育を育むことができた。 ・交通安全教室や防犯教室等の各種の安全教室の実施により、命の大切さや規範意識の高揚が図られた。	・中学校時に不登校だった生徒が登校できるようになったなど、教師の努力に感謝する。 ・今の社会においてコミュニケーション能力の育成が求められているので、更なる指導をお願いしたい。
改善方策	(1) 人間関係を自ら構築するための地域と連携・工夫した学校行事やボランティア活動の実施。 (2) 生徒理解に向けた面談や相談の機会を設定し、教職員が一致した指導の実践。	
進路指導	・教職員が一丸となった組織的な指導により、生徒の進路実現に向かう意欲の向上が図られた。 ・様々な進路に係る行事の取組や個に応じたきめ細かな指導により、生徒や保護者から満足得られる進路実績を残すことができた。	・生徒の進学指導に関して、目標を高く設定させて夢を大きく持った指導をしてもらいたい。 ・小規模校ならではの、個のニーズや保護者の希望を踏まえたきめ細かな進路指導ができています。
改善方策	(1) 進路相談や面接・小論文の指導及び進学講習等において、全教員で取り組む組織的な対応の実践。 (2) 一人ひとりの生徒の進路希望に沿ったきめ細かい指導の組織的な指導の継続。	
学校運営	・学校教育活動を定期的かつタイムリーに学校だより『南高不落』の町内配布やHPをととして広く広報することができた。 ・PTAや地域と連携した行事等の実施により、学校と保護者や地域との相互理解が図られ、スムーズな学校運営ができた。	・これまで以上に地域の協力を得ながら、地域の中の学校として更に教育活動を推進して欲しい。 ・適正配置計画で閉校が示されたが、今まで以上に町民を活用した行事の企画など、創意工夫により充実した高校生活を送らせて欲しい。
改善方策	(1) 学校内部だけの教育活動にとどまることのない、地域を活用した地域包括的な学校運営の実践。 (2) 保護者や地域とスクラムを組んだ体験的、経験的な教育活動によるふるさとキャリア教育の推進。	
公表方法	(1) 学校HPに掲載。 (2) 学校だより「南高不落」に掲載し、保護者・地域に配付。 (3) PTA役員会、PTA総会、学校評議員会などで報告。	